

都道府県が設定している要防除水準(果樹)

(2020年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
果樹(リンゴ、モモ、ナシ)	ハダニ類	5月中旬～9月上旬	ルーペによる見取り調査、1園地当たり新梢の中位葉30葉	葉当たり雌成虫1頭	要防除水準の密度に達した時期		福島県
果樹類	ハダニ類	生育期	1樹あたり新梢葉20枚、徒長枝葉10枚を見取り調査	成幼虫数3頭/葉以上	即時		山形県
果樹	ミカンハダニ	夏～秋期	見取り調査 1樹あたり40葉×3樹	雌成虫数早期多発樹で3頭/葉(平均で0.5～1頭/葉)	即時		愛媛県
果樹	黒点病	春～夏期	アメダスデータによる降水量調査 前回防除後からの日数	200～250mmの降雨後又は前回防除後30日以内。罹病性品種の場合、累積降水量180mmの降雨後、または前回防除後25日以内。	即時		愛媛県
かんきつ	ハダニ	随時	見取り調査	雌成虫の寄生葉率30%以上または1葉あたり1頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
かんきつ	ハダニ類	全期間	生息密度、見取り(10葉×5樹)	寄生葉率30%又は寄生虫数0.5～1.0頭/葉	即時		宮崎県
かんきつ	ミカンハダニ	—	見取り調査	寄生葉率30%以上、または1葉あたりの雌成虫数0.5頭～1頭以上	即時		佐賀県
かんきつ	ミカンハダニ	—	100葉(50葉×2樹)の見取り調査	雌成虫数0.5～1頭/葉	即時		熊本県
かんきつ	ミカンハダニ	—	100葉(50葉×2樹)の見取り調査	雌成虫寄生葉率30～40%	即時		熊本県
カンキツ	ミカンハダニ	—	見取り調査	雌成虫0.5～1.0頭/葉(寄生葉率30～40%程度)	即時		鹿児島県
かんきつ	ミカンハダニ	3月～10月	見取り調査、1圃場あたり50葉調査	1.0頭/葉	即時		三重県
中・晩生かんきつ類(施設栽培)	ミカンハダニ	6月	任意に100葉を選び寄生葉を調査し、寄生葉率を求める。	寄生葉率20%以上	6月中下旬(果実肥大期)		千葉県
中・晩生かんきつ類(施設栽培)	ミカンハダニ	10月	任意に100葉を選び寄生葉を調査し、寄生葉率を求める。	寄生葉率20%以上	10月中旬		千葉県
かんきつ	ミカンハダニ	春～秋	見取り調査	寄生葉率30～40%、1葉あたり雌成虫数が0.5～1頭以上	即時		山口県
かんきつ	ミカンハダニ	生育期	見取り調査、予察圃場50葉/樹/2樹、巡回調査50葉/圃場	寄生葉率30～40%	即時		長崎県
かんきつ	チャノキイロアザミウマ	6～7月	見取り調査、予察圃場50果/樹/2樹、巡回調査25果/圃場	果実における寄生密度 0.1頭/果	即時		長崎県
かんきつ	チャノキイロアザミウマ	6～7月	果実洗浄	100果あたり10頭以上	即時		熊本県

都道府県が設定している要防除水準(果樹)

(2020年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
かんきつ	チャノキイロアザミウマ	6～9月	6～9月	寄生果率15%以上または10果あたり1頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
かんきつ	チャノキイロアザミウマ	8～9月	見取り調査、予察圃場50果/樹/2樹、巡回調査25果/圃場	果実における寄生密度 0.3～0.5頭/果	即時		長崎県
かんきつ	チャノキイロアザミウマ	8～9月	果実洗浄	100果あたり15頭以上	即時		熊本県
中・晩生かんきつ類(施設栽培)	カイガラムシ	6月	任意に100葉を選び寄生葉を調査し、寄生葉率を求める。	寄生葉率30%以上	6月中下旬(果実肥大期)		千葉県
かんきつ	ヤノネカイガラムシ	3月	見取り調査	越冬母虫が100葉あたり2頭以上	6月または8月	(要防除密度の目安)	兵庫県
かんきつ	ヤノネカイガラムシ	4月	100葉の見取り調査	100葉あたり雌成虫数2～15頭未満	6月		熊本県
かんきつ	ヤノネカイガラムシ	4月	100葉の見取り調査	100葉あたり雌成虫数15頭未満	6月と8月		熊本県
かんきつ	ヤノネカイガラムシ	4月	100葉の見取り調査	100葉あたり雌成虫数2頭未満	8月		熊本県
かんきつ	黒点病	—	降雨量の確認(積算値を利用)	(1)薬剤散布後の積算降雨量が200～250mmに達した時点(マシン油を加用した場合300～400mm)(2)積算降雨量が(1)に達しない場合、散布後1ヶ月	即時		佐賀県
かんきつ	黒点病	—	前回散布からの(1)累積降水量(2)日数	前回散布からの累積降水量200～250mm又は25～30日後	即時		熊本県
カンキツ	黒点病	発生期	薬剤散布後の降水量	散布後250mm以上降雨があつたら再防除	即時		神奈川県
かんきつ	黒点病	5月～9月	降水量	前回防除後の降水量が200～250mmに達した時(もしくは防除後1ヶ月を経過した時)	即時		山口県
かんきつ	黒点病	5月中旬～8月	降水量調査	累積降水量250～300mm以上又は前回散布からの経過日数25～30日	即時		長崎県
かんきつ類	黒点病	5月中旬～8月下旬	累積降水量:アメダスポイント毎で半旬別降水量から前回防除後の累積降水量を把握する。	前回農薬散布以降1か月が経過した場合、あるいは、累積降水量が250mmを超えた場合	即時		広島県
カンキツ	黒点病	5月中旬～9月上旬	降水量調査(簡易雨量計など)	薬剤散布後累積降水量200～300mm、または前回散布から経過日数25～30日	即時		鹿児島県
かんきつ	黒点病	落弁期～9月	降水量、アメダス	前回防除後の降水量累積250～300mm	即時		宮崎県
みかん	ミカンハダニ	3月～11月	雌成虫の寄生葉率	夏期:寄生葉率30%、秋期:寄生葉率20%	3月～10月		静岡県

都道府県が設定している要防除水準(果樹)

(2020年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
みかん	チャノキイロアザミウマ	5月～10月	寄生果率	許容被害度を10とした場合、6月～7月の寄生果率が8%、8～9月は10%	6月～9月		静岡県
みかん	黒点病	5月～10月	降雨量	有機銅: 散布間隔は20～25日または累積降雨量230mm・有機銅以外の薬剤: 散布間隔は25～30日または累積降雨量250mm～300mm	5月～9月		静岡県
なし	ハダニ類	—	見取り調査	寄生葉率10%以上又は1葉あたりの雌成虫数0.5頭以上	即時		佐賀県
なし	ハダニ類	—	100～250葉(20～50葉×5樹)の見取り調査	雌成虫数1～2頭	即時		熊本県
なし	ハダニ類	—	100～250葉(20～50葉×5樹)の見取り調査	寄生葉率20%以上	即時		熊本県
なし	ハダニ類	随時	見取り調査	成幼虫数が3頭/葉に達した樹が全体の10%以上	即時		秋田県
なし	ハダニ	5～9月	見取り調査	寄生葉率20%以上または1葉あたり1頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
ナシ	ハダニ類	6月～8月	見取り調査(ほ場全体を観察する)	2頭/1葉	即時		群馬県
なし	黒星病	5月上旬～6月中旬	降雨量の確認(積算値を利用)	(1)薬剤散布後の積算降雨量が100～200mmに達した時点(ただし、使用する薬剤により、防除基準である降雨量の目安が変わる) (2)積算降雨量が(1)に達しない場合散布14日後	5月上旬～6月中旬		佐賀県
りんご	ハダニ類	随時	見取り調査	成幼虫数が3頭/葉に達した樹が全体の10%以上	即時		秋田県
りんご	ハダニ類	随時	—	1葉あたり3頭以上	要防除密度に達した時		宮城県
りんご	ハダニ類	6～8月	ルーペによる見取り調査、1園地あたり10樹、1樹あたり10枚の葉を調査。調査する葉は、リンゴハダニでは目通りの高さの新梢10本の中位葉を各1枚。ナミハダニでは、樹冠内部の主幹や主枝から直接発出した新梢10本の中位葉を各1枚。	2個体/葉 又は寄生葉率50%以上	できるだけ早めに殺ダニ剤を散布		青森県
リンゴ	ハダニ類	6月～8月	見取り調査(ほ場全体を観察する)	2頭/1葉	即時		群馬県

都道府県が設定している要防除水準(果樹)

(2020年度調べ)

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
りんご	ハダニ類	6月中旬～9月上旬	普通樹で主幹・主枝徒長枝の下位葉、わい性樹で主幹近くの新梢下位葉を調査	寄生葉率30%	即時	平成20年岩手県農業研究センター試験研究成果	岩手県
りんご	ナミハダニ	7～9月	見取り調査	寄生葉率30%以上または1葉あたり1頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
ぶどう	チャノキイロアザミウマ	5月下旬	黄色粘着トラップ(20cm×20cm)による誘殺	旬あたり20頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
ぶどう	チャノキイロアザミウマ	6月上旬	黄色粘着トラップ(20cm×20cm)による誘殺	旬あたり40頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
いちじく	アザミウマ類	6月上旬	黄色粘着トラップ(20cm×20cm)による誘殺	旬あたり300頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県
いちじく	アザミウマ類	6月中旬	黄色粘着トラップ(20cm×20cm)による誘殺	旬あたり500頭以上	即時	(要防除密度の目安)	兵庫県